



JAM×日教組の共催

「第6回ものづくり教育シンポジウム」開催

子どもたちはモーターカー・バイク工作を体験



「ものづくり大学」埼玉県行田市。約300人が参集したメイン会場の体育館



ものづくり大学の魅力を説明するパネルディスカッションのパネラー山田聡克（としかつ）氏（左）

JAMと日本教職員組合共催の「第6回ものづくり教育シンポジウム」が2月18日に埼玉県行田市「ものづくり大学」で開かれ総勢約300人が参加した。

JAMは毎年この時期に「ものづくりシンポジウム」を開催しているが、3～4年ごとに1回日教組と共催で、子どもたちに、ものづくりの楽しさと素晴らしさを知ってもらうために、「ものづくり教育シンポジウム」を開いて第6回となる。

今回は、ゆたかな学びで創造する「ものづくり」をテーマに、基調講演・パネルディスカッションと子どもたちに向けて、ものづくり体験教室を行った。

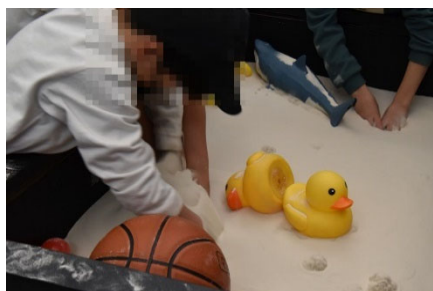
基調講演は千葉大学教育学部准教授の木下龍氏から「ものづくり教育のゆたかな学びの意義と課題」について講演を受けた。

パネルディスカッションでは、「ものづくり教育のゆたかな学びと育ち」と題し、コーディネーターに木下龍氏、パネリストは教育者から、大垣賀津雄氏（ものづくり大学技能工芸学部教授）、現役学生から佐藤里桜氏（ものづくり大学4年生）、ものづくり大学第3期卒業生で、現在企業で活躍している、山田聡克氏（としかつシズンマシナリーユニオン）の4人が討論した。

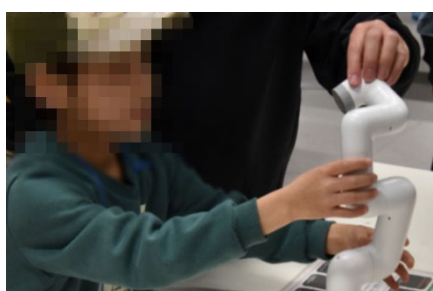
同時進行で「子どもものづくり体験ワークショップ」「おとなの学校見学会」を行った。会場入口では、JAM加盟組織の企業紹介展示（リケン、東邦車輛、ボッシュ、シバサキ製作所）も行い、デモンストレーションなどを行った。

モーターカー工作、動作を覚えさせる小型ロボットなど「子ども、ものづくり体験」には、当初予定した人数を大幅に超えた約150人の親子が参加し、子どもたちはものづくりのおもしろさを体験した。

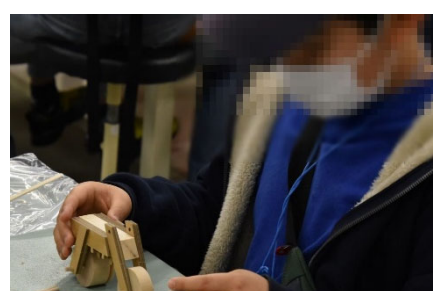
※写真は一部加工



流動床体験



小型ロボット体験



モーターカー・バイク工作